

氏 名： 小山 道子
学 位 の 種 類： 博士(看護学)
学 位 記 番 号： 博看護第1号
学位授与の要件： 学位規則第4条第1項該当
学位論文題目： 地域包括支援センター看護職の社会福祉士、主任介護支援専門員との
専門領域を超えた職種間協働のコンピテンシー自己評価尺度の開発
研究指導教員： 廣島 麻揚
論文審査委員： (主査)佐々木 美奈子 (副査)米山 万里枝
(委員)宮本 千津子 (委員)天谷 真奈美

論文審査結果の要旨

本報は、地域包括支援センターの看護職者が、看護職としての専門性と、社会福祉士、主任介護支援専門員との協働性に折り合いをつけ、包括的ケアシステムの構築および職種間協働を通じたケアマネジメントに取り組むための手がかりを示す、「地域包括支援センター看護職の社会福祉士、主任介護支援専門員との職種間協働における包括的ケアマネジメントのコンピテンシー自己評価尺度」を開発している。

小山氏が本学修士課程において取り組んだ研究をもとに、地域包括支援センター看護職の社会福祉士、主任介護支援専門員との職種間協働のプロセスを質的に研究した結果から尺度案を作成し、予備調査を経て、全国47都道府県にある地域包括支援センター直営型・委託型から層化無作為抽出した1,500か所の看護職を対象に調査を行い、項目分析、主因子法・Quartimin回転による探索的因子分析を行い、尺度を生成し、信頼性・妥当性の検証を行っている。

回収数625通(回収率41.7%)から有効回答者578名(有効回答率92.5%)について分析し、「他職種から相談援助の知識・技能の支援を受けながら教わる」「他職種と円滑に循環するコミュニケーションを心掛ける」「他職種を支援し医療・健康の知識・技能を教える」「チームとして他職種と統合する」「協働の中に看護職の専門性が内蔵することを見出す」の5因子・22項目から構成される『職種間協働のプロセス評価尺度』と、6項目から構成される『包括的ケアマネジメント評価尺度』を生成している。外的基準との併存的妥当性や構成概念妥当性、再現性は確認されたが、『職種間協働のプロセス評価尺度』の因子「協働の中に看護職の専門性が内蔵することを見出す」のCronbach α 係数が0.624と低く、尺度の信頼性の課題が残ったという結果である。

質的研究からの尺度案の生成過程の記述については、まだ十分でない点があるものの、尺度開発における信頼性、妥当性の検証などは妥当な研究手法が用いられている。また、開発

された包括的ケアマネジメントのコンピテンシー自己評価尺度は、地域包括支援センターのような専門領域を超えた協働において、専門性を保ちつつ他職種と協働する際の示唆を示すものであり、意義の高い研究であると判断される。

平成 30 年 2 月 16 日

論文審査委員（主査） 佐々木 美奈子